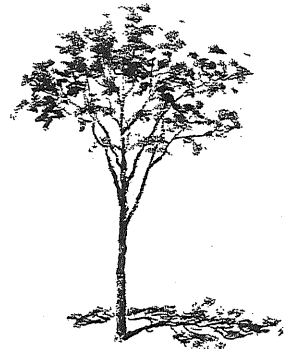


郷土の歴史 371

八潮の地名考

坊の地名



現八潮市大字坊 坊は、坊川(綾瀬川)左岸の微高地に近世集落が発展した地域。地名の起立は、水がカケ(捌け)ることと因み、水が流れるとき「土」が流されて「行」という字を当てる(八潮の民俗資料)。なお坊の対岸「猿ヶ股」も水が「さる(去る)」ことと因む地名と伝える。

開創、其後上杉里見の乱に寺衰成しと也」と記される古刹である。 坊村 現八潮市大字坊 近世初期から明治22年までの村名。坊の支配は、天正19年(1590)からは徳川支配地、代官の管轄下となり、寛文2年(1662)から明治維新まで、旗本森川下総守領であった。

延宝2年(1674)に開削された本所上水は、葛西用水路の東川を流れ、坊付近で伏越して西側を流れ

た。享保18年(1733)に本所上水古堀跡の新田開発地を坊村新田と呼んだ。なお河川用排水路は、中川は坊から古綾瀬川を合流して南流し、川幅60間、堤高1丈(新編武蔵風土記稿)の川で、古利根川中川筋藻刈組合に属し、40間を管轄していた。

「郷土の歴史」欄筆のあいさつ 昭和43年から今日までの32年余、郷土の歴史を愛読いただき、ありがとうございます。本号(371)号にて筆折させていただきます。

文芸欄

呉美代選

詩

雁 古新田 三ヶ島千枝 畑からの帰り道 空を見上げると 雁の一群が夕陽を浴びながら 森をめざして飛んでいく 一番大きな雁が先頭に立ち その後に二羽と四羽が V字形の編隊を組んで 羽ばたきながら 親鳥のあとを飛んでいく 赤く染まった空 わたしは土手沿いの道を 自転車で走る あたりは薄墨色になり 雁の群は小さくなっていく そのようすが 幼いころの子供たちの後姿と重なって見えるのだった

短歌

柳之宮 栗原 幸子 遙かなる知床の旅いくとせぞ 羅臼の峰に雪は光るか 八潮七 種村 幸子 先見えぬ不安を胸に口閉ざし 鍵盤たたくこの子も十代 南川崎 伊本 則子 盆の客も送り火もすみ一呼吸 トンボ数多に飛び交うを見ゆ 南後谷 杉村 セツ 暑気払い心開きて語り合ひ 歌にダンスに憩う一日 八潮七 深井 健 演説を終えし候補者立ち去りて 猛暑の午後の熱き戦い 南川崎 小野塚喜代子 白根山湯釜に向い流れくる 霧は立ちこめ視界ささぎる

俳句

中央一 猪瀬 利助 孫たちに誘われるまま公園で とともに遊びぬわれも幼児 鶴ヶ曾根 齊藤 道子 牛と馬真狐で父の作りしを 引きて遊びぬ思い出のなか 柳之宮 平沼 良子 蝉しぐれ背に聴きつつ曲がりくれば 木陰に風の通る径あり 坊 小澤千代子 雄大な立山の峰に佇めば 我は無となり力あふるる 二丁目 田中 祐子 児に帰る姑と戯れわらべ唄 想い尽きなき新盆の宵 木曾根 高谷 多門 友見舞い一刻安堵して帰る 院の裏戸の軋み気にしつ 木曾根 岡村 富子 生きなむとして耐える我にさしのべし 白衣の人の温き手のひら

二丁目 平井 石龍 黒棒に納まる妻に百合薫る 分けて食う妻なく侘びし桃の味 八潮七 杉村 知香 祖母と行く一本道の大暑かな 名月や友の横顔彫深く 八潮七 石井 忠枝 緩やかに扇を閉じて話題かえ ガン告知胸に納めて水を打つ 八潮七 茂村 つ留 天災も人災もあり酷暑かな 手話のごと蟻がなやら立ち話 緑町五 加藤 龍子 ものうげに夕波投げ出す夏の海 大曾根 古根 昌明 新世紀語り継がれて原爆忌

鶴ヶ曾根 平本 千泉 百日紅老樹は耐えて花盛り 大曾根 小倉 花子 外猛暑床の下では秋の声 八潮五 小島しず子 七月にうぐいす鳴いて暮参り 大曾根 小倉 義孝 老妻と二人で迎え火盆提灯 緑町五 藤波 ふみ ホース手に打ち水戸惑う蝉しぐれ 八潮五 小林 光 ひまわりの花あざやかに夏の顔 緑町三 岩田 苑江 ところどころの暗を流し去る 心太すすりて顔を見合わせる 鶴ヶ曾根 斎藤 初子 悪戯児の寝たふり上手合歡の花 老人のオアシスとなり椎大樹 (評) 季節が重ならないように(注意) ださい

市民の皆さんの投稿をお待ちしています。 投稿は、一人2作品までとします。 ※来月号から、文芸欄は紙面構成を変更します。 【応募先】 〒3408588 八潮市中央一―二―一 八潮市役所広聴広報課広聴広報係

三郷市 草加市 越谷市 松伏町 イベント情報. 第29回消費生活展. 第27回越谷市民まつり. 第2回吉川市フォトコンテスト. 草加市民まつり「子どもたちにふるさとを」. 10月6日(土)、午後1時～4時・7日(日)、午前10時～午後3時. 10月30日(日)、午前9時～午後4時. 10月11日(日)までに、吉川市視聴覚ライブラリーへ持参または郵送(〒342-0045吉川市木売1丁目5-3、吉川駅北口から徒歩1分).